

多核種除去設備A系 前処理設備ドレンラインからの堰内の漏えいについて

2019年7月25日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■概要

- 2019年7月11日 多核種除去設備A系統の鉄共沈処理プロセスのドレンラインから滴下を確認。滴下した水は多核種除去設備の堰内に留まっており、建屋外への流出はない。
- 滴下発生は、前処理ステージ1クロスフローフィルタA循環配管ドレン弁*下流の閉止栓ねじ込み部からであった。
- 滴下発生時、共沈タンクの交換等実施後の試運転において、当該ラインは、ろ過水を張った循環待機状態から処理運転への切替が行われていた。

■時系列（7月11日）

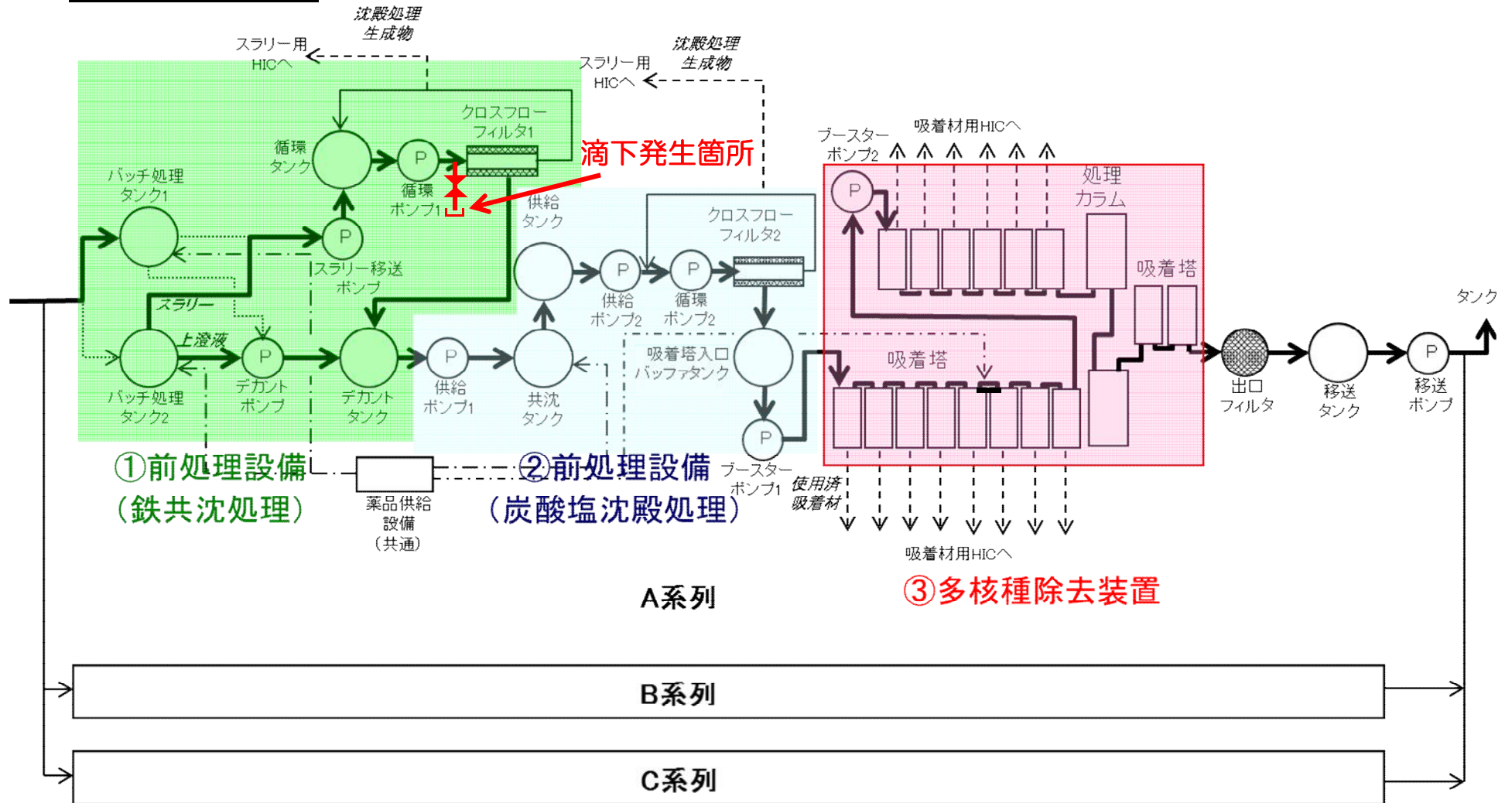
- 15:28 循環ラインのドレン弁閉止栓から水が漏えい（滴下）していることを委託のパトロール員が発見
- 15:39 漏えいした水をウエスにて拭き取り後、養生シートによる受けを設置
- 16:01 既設多核種除去設備（A）停止操作
- 16:37 当該閉止栓の増し締めし、漏えい停止を確認
- 18:05 サンプルング実施
- 20:59 分析結果確認

配管内の水の放射能濃度

Cs134： 6.7×10^3 Bq/L, Cs137： 9.2×10^4 Bq/L, 全 β ： 2.0×10^7 Bq/L

滴下発生箇所

■滴下発生箇所



滴下箇所の状況

■滴下箇所の状況

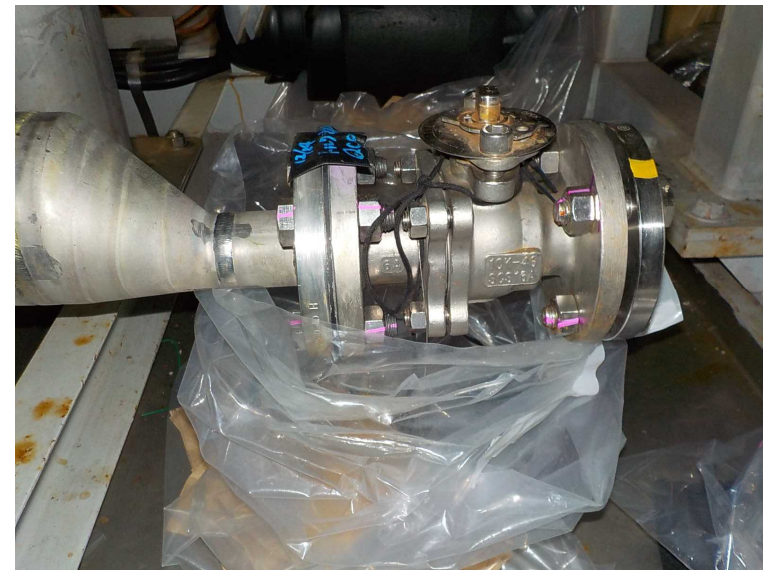
- 当該箇所は系統洗浄時に閉止栓を取外し、薬液注入を行う運用としている。
- ドレン弁のシートパス発生 および 閉止栓の緩みが原因となった。



復旧状況と今後の対応

■復旧状況

- 既設ALPS A系の運転再開にあたり、当該弁の出口フランジを取外し、閉止フランジ取り付けで復旧し、7/18より処理運転再開。



■今後の対応

- ドレン弁の点検手入、または交換を行い、シートパスの解消を図る。
- 閉止栓の施工状況等を確認し、必要に応じて対策を検討する。